

令和 6 年度 栃木県こどもモニター
第 3 回アンケート結果
(高校生～22 才)

調査実施の概要

1. 栃木県こどもモニターってなに

栃木県は、こどもに関する施策を考えて実現するため、こどもや若者、保護者の意見やアイデアを継続的に集め、政策に取り入れることを目的として「栃木県こどもモニター」を募集します。

モニターのみなさんには、栃木県についてのアンケートから意見を収集し、これからの栃木県の施策やルール作りにつなげていきます。

もっと暮らしやすい栃木県になるように、いっしょに考えよう！

2. 第3回アンケート期間

令和6年10月21日（月曜日）から11月18日（月曜日）

3. アンケート方法

アンケート対象者にメールで回答 URL を送付、WEB サイトを通じてアンケートに回答。

4. モニター数

185名

5. 第3回アンケート回答者数

107名

6. 第3回アンケート回答率

57.8%

※「その他」を選択した場合の自由記述欄は原文のまま掲載しています。

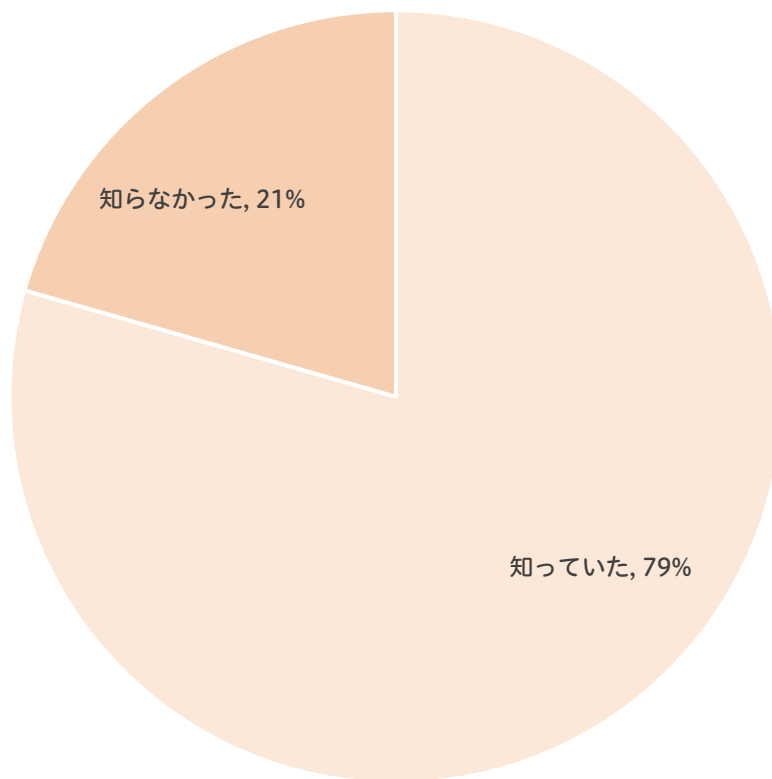
性別	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
男性	50	30	28.0%	60.0%
女性	133	77	72.0%	57.9%
その他	2	0	0.0%	0.0%
合計	185	107	-	57.8%

学年	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
高校1年生	27	22	20.6%	81.5%
高校2年生	94	39	36.4%	41.5%
高校3年生	12	10	9.3%	83.3%
16才	2	0	0.0%	0.0%
17才	2	0	0.0%	0.0%
18才	5	2	1.9%	40.0%
19才	11	10	9.3%	90.9%
20才	17	12	11.2%	70.6%
21才	13	10	9.3%	76.9%
22才	2	2	1.9%	100.0%
合計	185	107	-	57.8%

※ 集計結果は百分率(%)で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したものになります。
そのため、合計が100.0%にならないものがあります。

Q1.栃木県の条例の規定により、自転車を利用する人は、自転車損害賠償責任保険等への加入義務があることを知っていますか。

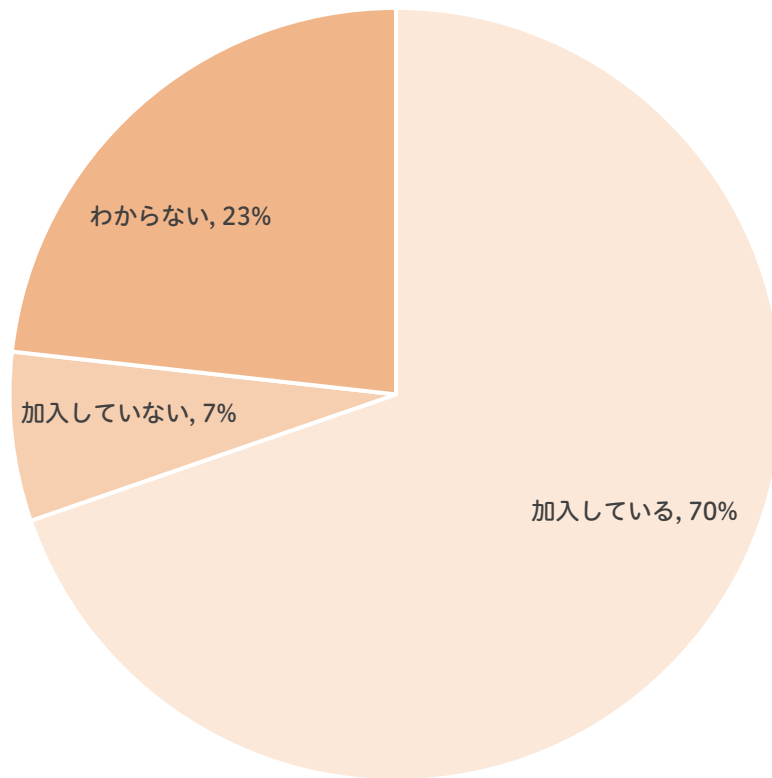
※自転車損害賠償責任保険等とは、自転車の事故で相手にケガなどをさせてしまった場合の補償に関する保険や共済などです。



【調査結果の概要】

「知っていた」(79%)が半数以上を占めており、「知らなかった」が21%となっている。

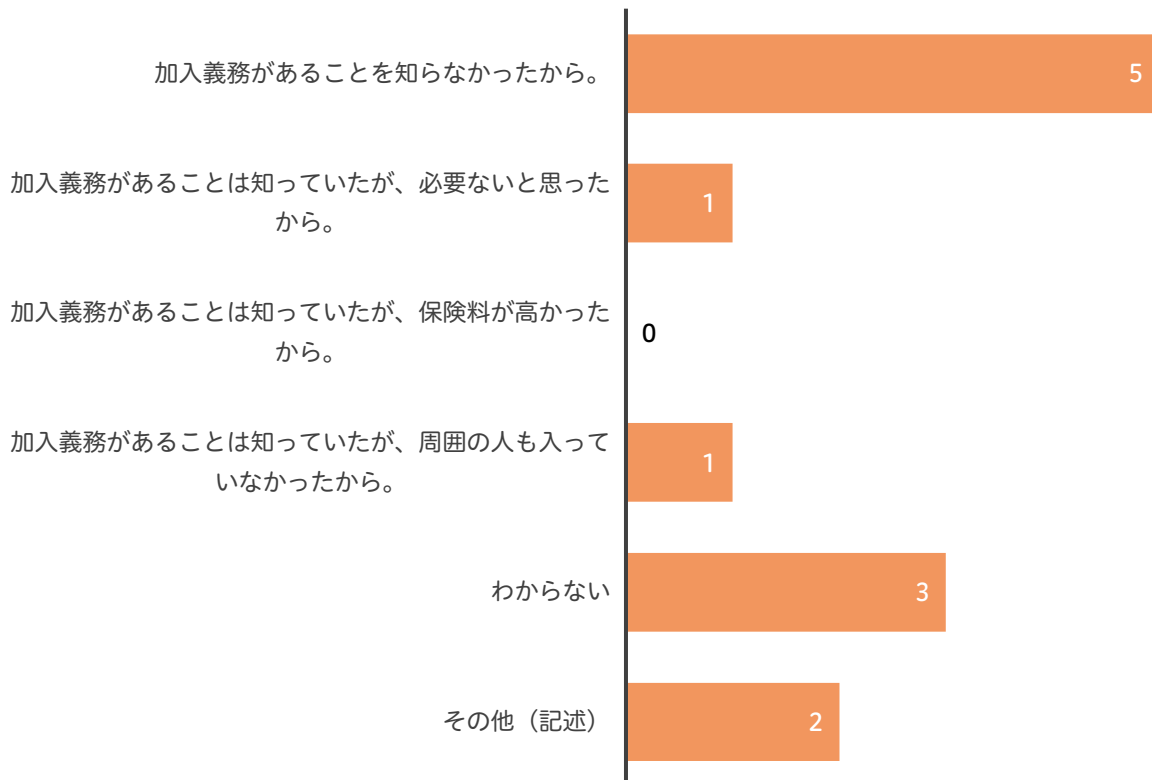
Q2.自転車を利用する人に質問です。あなたは、自転車損害賠償責任保険等に加入していますか。



【調査結果の概要】

「加入している」(70%)が最も多く、続いて「わからない」(23%)、「加入していない」(7%)となっている。

Q3. 「Q2」で「加入していない」と回答した人に質問です。自転車損害賠償責任保険等に参加していない理由は何ですか。【2つまで選んでください】



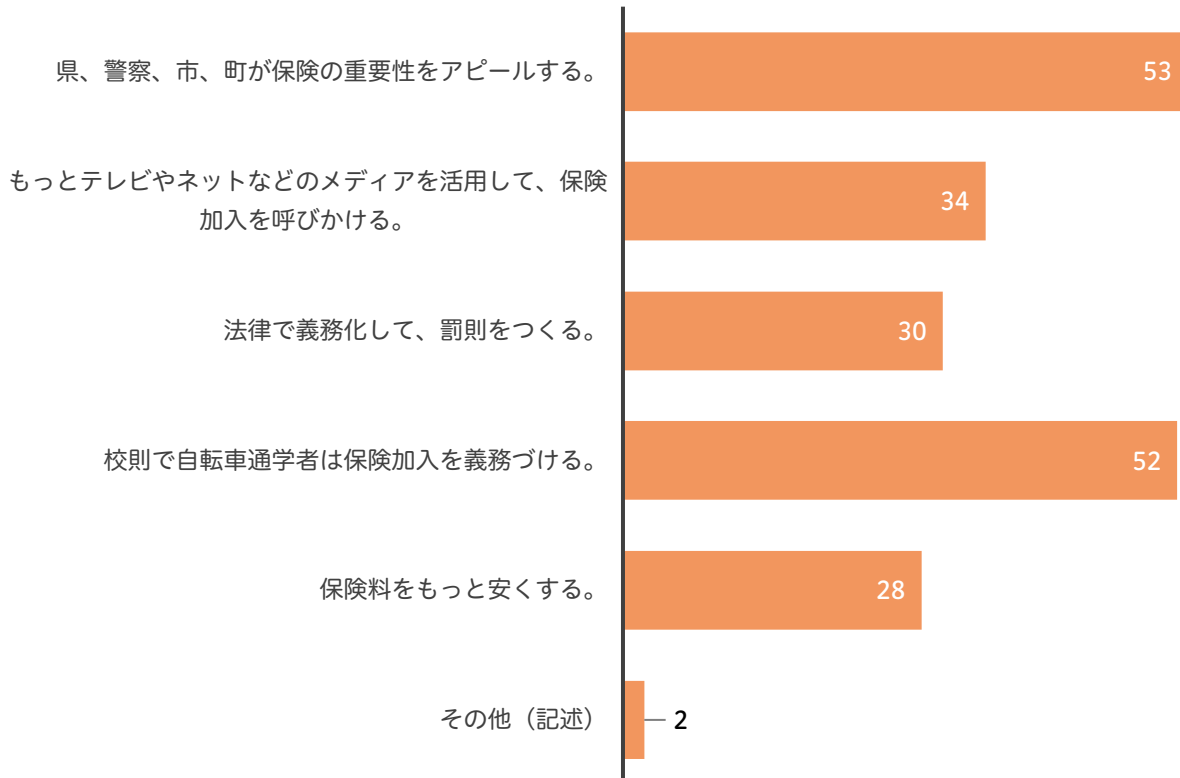
【調査結果の概要】

「加入義務があることを知らなかったから」(5件)が最も多く、「わからない」(3件)、「その他」(2件)と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 普段自転車にのらないから
- ・ 個人賠償責任保険に加入しているから

Q4.現在、栃木県の自転車損害賠償責任保険の加入率は、他県に比べ低い状態です。そこで、どうすれば保険の加入率が上がると思いますか。
【2つまで選んでください】



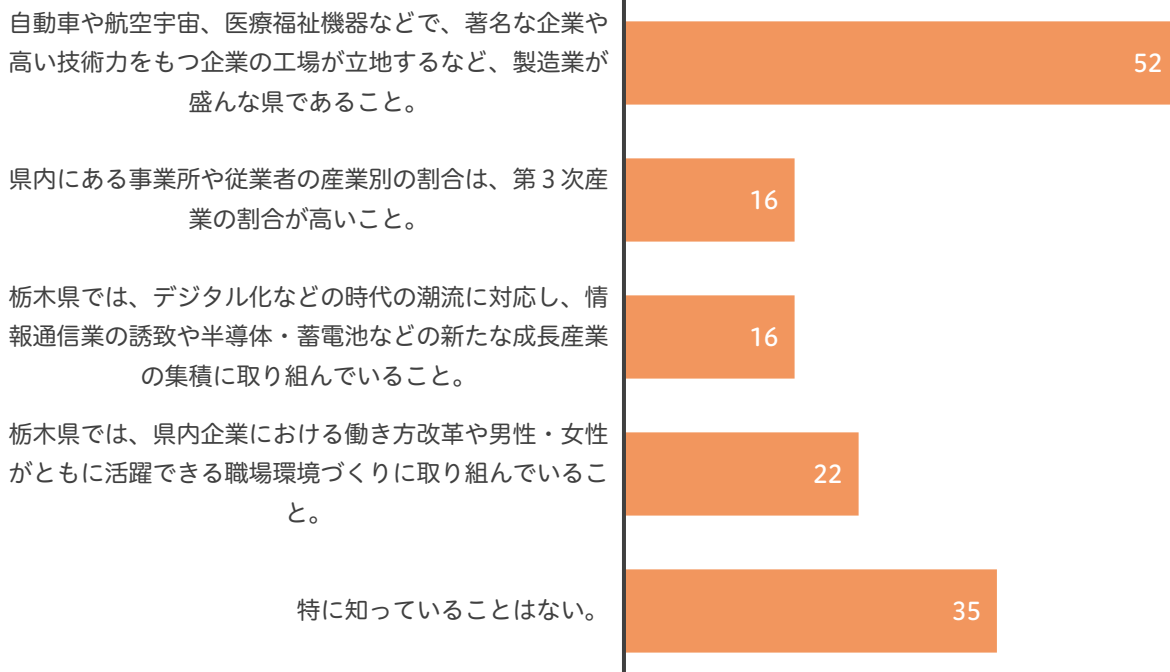
【調査結果の概要】

「県、警察、市、町が保険の重要性をアピールする」（53件）と「校則で自転車通学者は保険加入を義務付ける」（52件）がほぼ同数で最も多く、以下「もっとテレビやネットなどのメディアを活用して、保険加入を呼びかける」（34件）、「法律で義務化して、罰則をつくる」（30件）と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 個人の責任
- ・ 自動車保険にオプションで付けられることをPRしたらよいと思う。わざわざ新規加入するのは面倒だけど、オプション追加なら気軽に安くできるから。

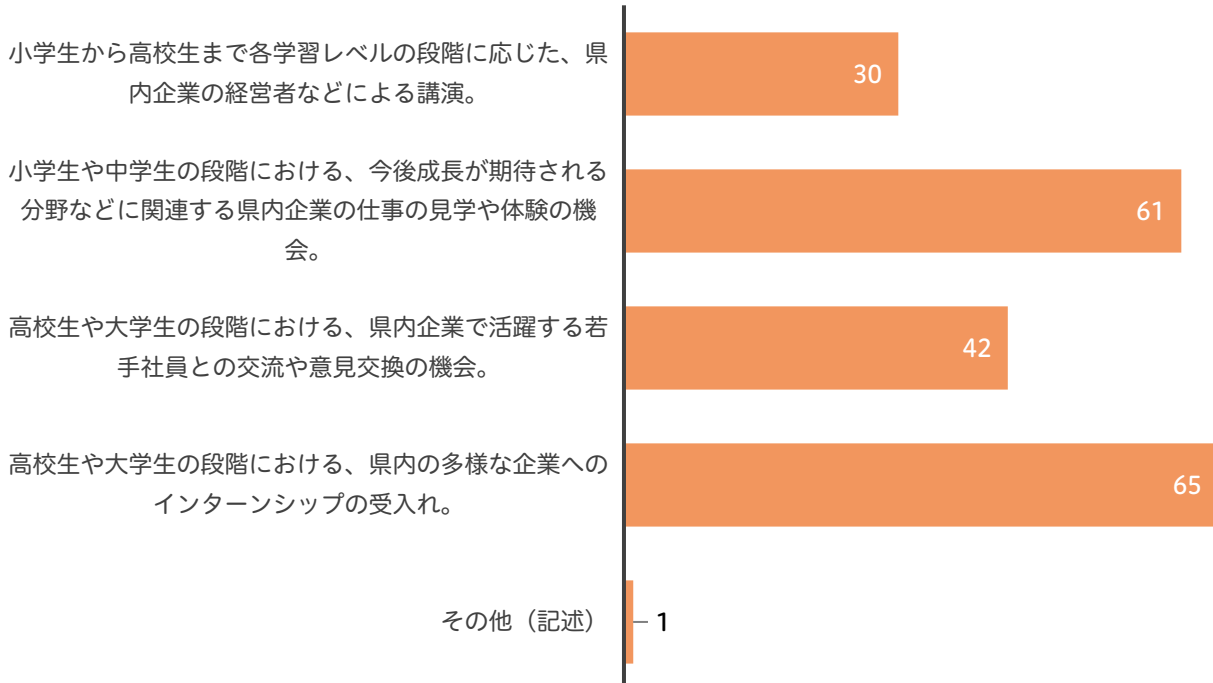
Q5.栃木県の第2次産業（例：製造業、建設業など）、第3次産業（例：卸売・小売業、情報通信業など）の特徴等について、知っているものは次のうちどれですか。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「自動車や航空宇宙、医療福祉機器などで、著名な企業や高い技術力をもつ工場が立地するなど、製造業が盛んな県であること」(52件)が最も多く、以下「特に知っていることはない」(35件)、「栃木県では、県内企業における働き方改革や男性・女性がともに活躍できる職場環境づくりに取り組んでいること」(22件)と続いている。

Q6.進学で東京や他県にいる人達に対して、栃木県にも魅力的な仕事があることを知ってもらうためには、どのようなことが大切だと思いますか。【いくつでも選んでください】



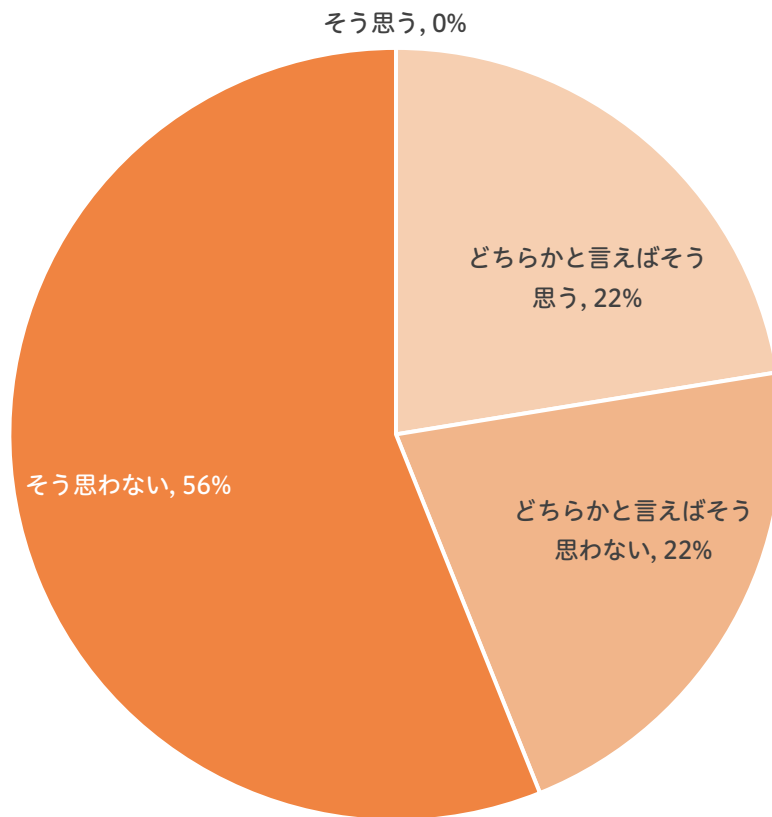
【調査結果の概要】

「高校生や大学生の段階における、県内の多様な企業へのインターンシップの受入れ」（65件）が最も多く、以下「小学生や中学生の段階における、今後成長は期待される分野などに関連する県内企業の仕事の見学や体験の機会」（61件）、「高校生や大学生の段階における、県内企業で活躍する若手社員との交流や意見交換の機会」（42件）と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ まずは、栃木県で生活することの魅力を知ってもらわないと、いい仕事があっても栃木県に定住しないと思う。だから、住み良さや東京に近いことなど、栃木の魅力をアピールするべきと考える。

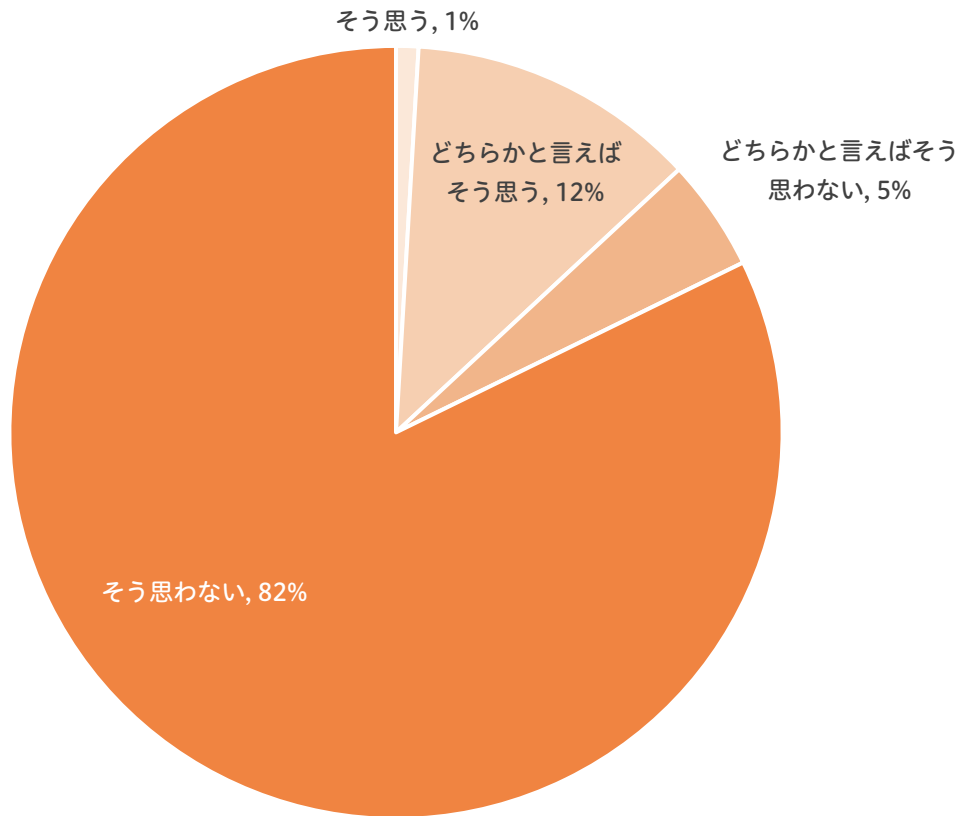
Q7.家事・育児は女性がすべきだと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(56%)が最も多く、半数以上を占めており、続いて「どちらかと言えばそう思う」「どちらかと言えばそう思わない」がどちらも22%となっている。

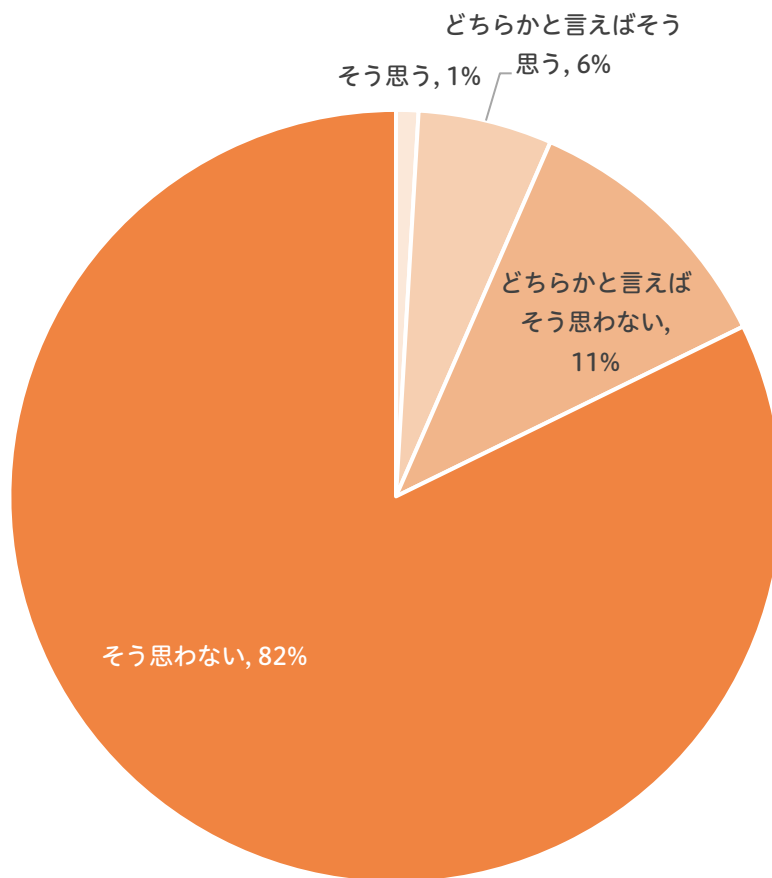
Q8.女性に理系（数学や理科、技術など）の学校や職業は向いていないと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(82%)、「どちらかと言えばそう思わない」(5%)を合わせると、9割近くの人が「女性に理系の学校や職業は向いていない」と思っていない結果となった。

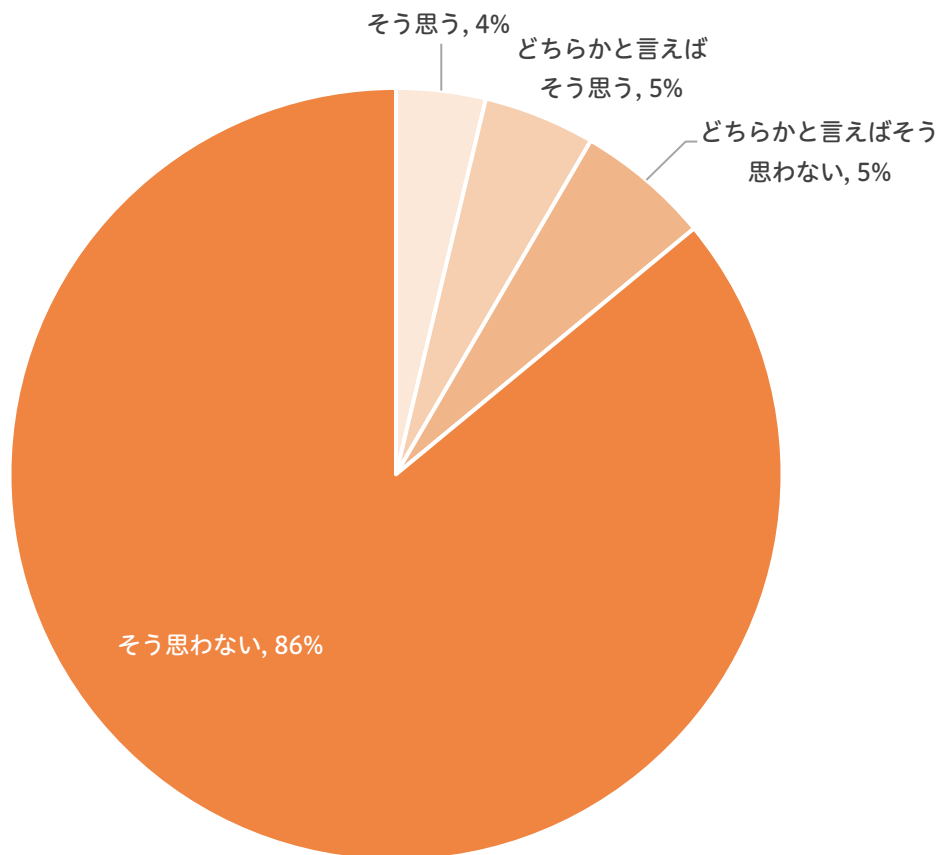
Q9.学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いていると思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(82%)が最も多く、続いて「どちらかといえばそう思わない」(11%)となっており、9割以上の方が「学級委員や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子が向いている」とは思っていない結果となった。

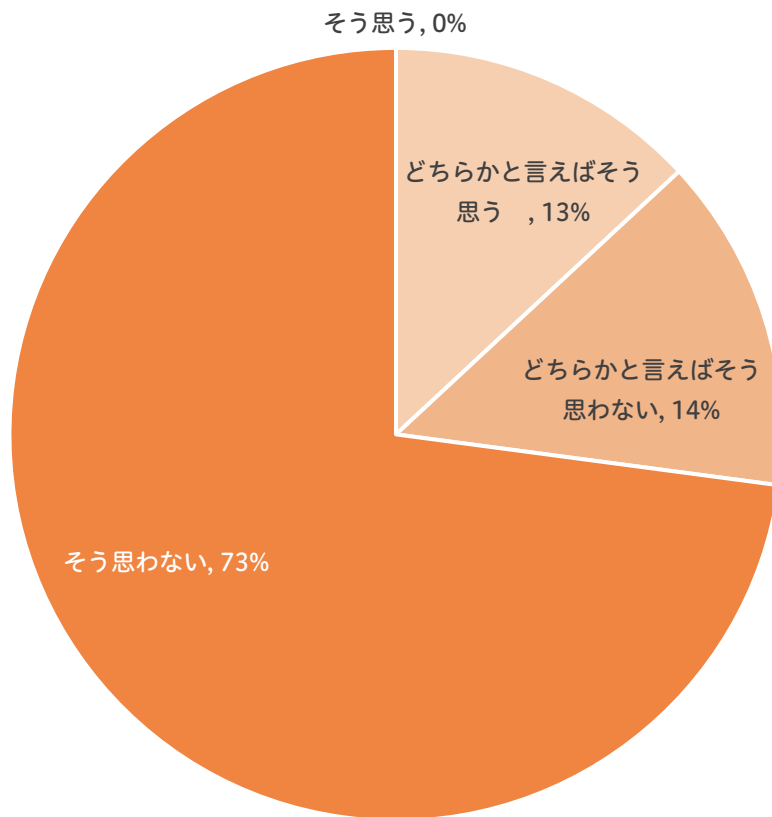
Q10.男性は出産休暇／育児休業を取るべきではないと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(86%)で最も多く、「どちらかといえばそう思わない」(5%)も含めると、9割以上の方が「男性は出産休暇/育児休業をとるべきではない」と思っていない結果となった。

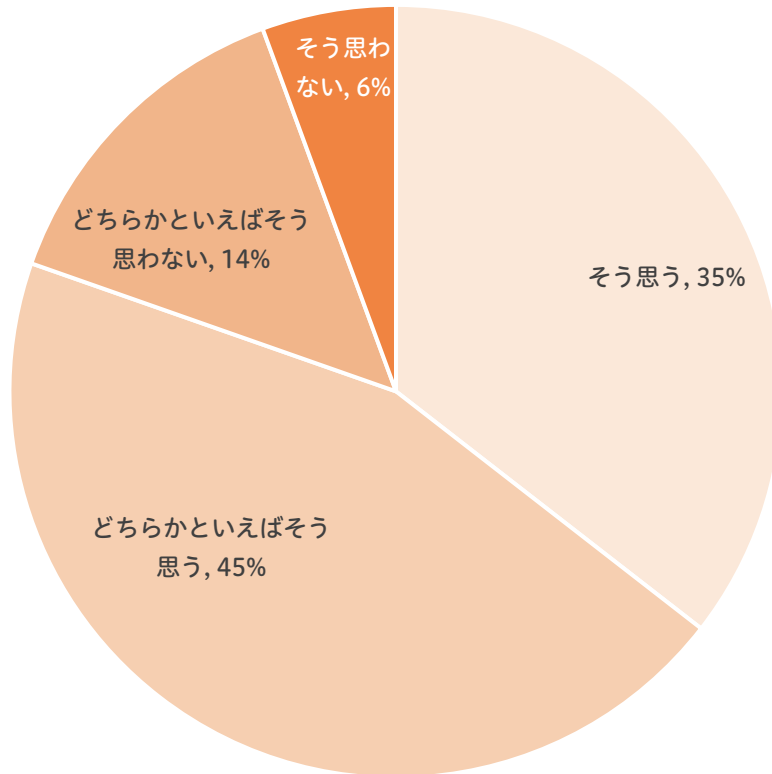
Q11.職場のリーダーは男性が向いていると思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(73%)、が最も多く、続いて「どちらかと言えばそう思わない」(14%)、「どちらかと言えばそう思う」(13%)となっている。

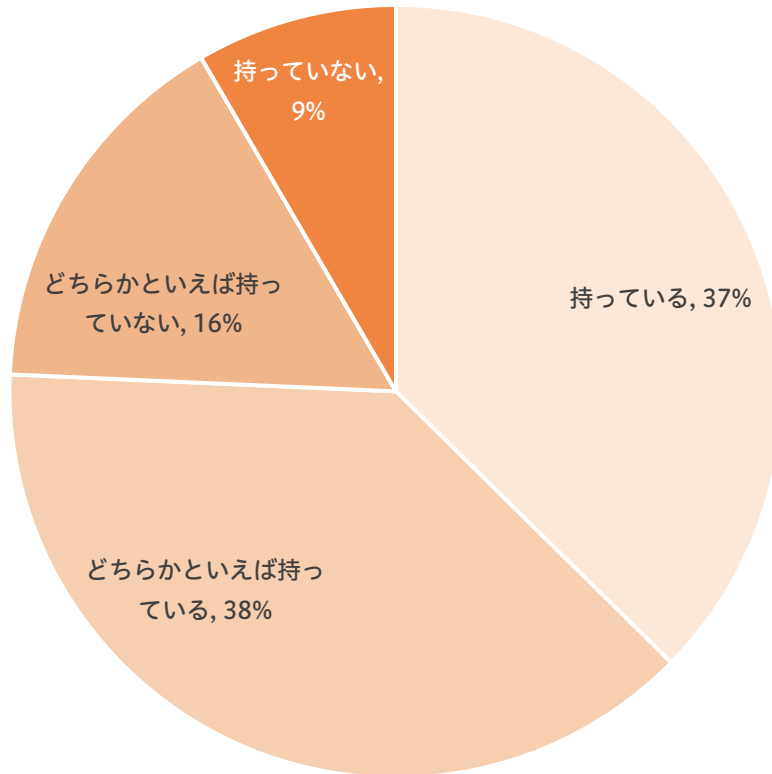
Q12.今の生活が充実していると思いますか。



【調査結果の概要】

「どちらかといえばそう思う」(45%)が最も多く、続いて「そう思う」(35%)、「どちらかといえばそう思わない」(14%)となっている。

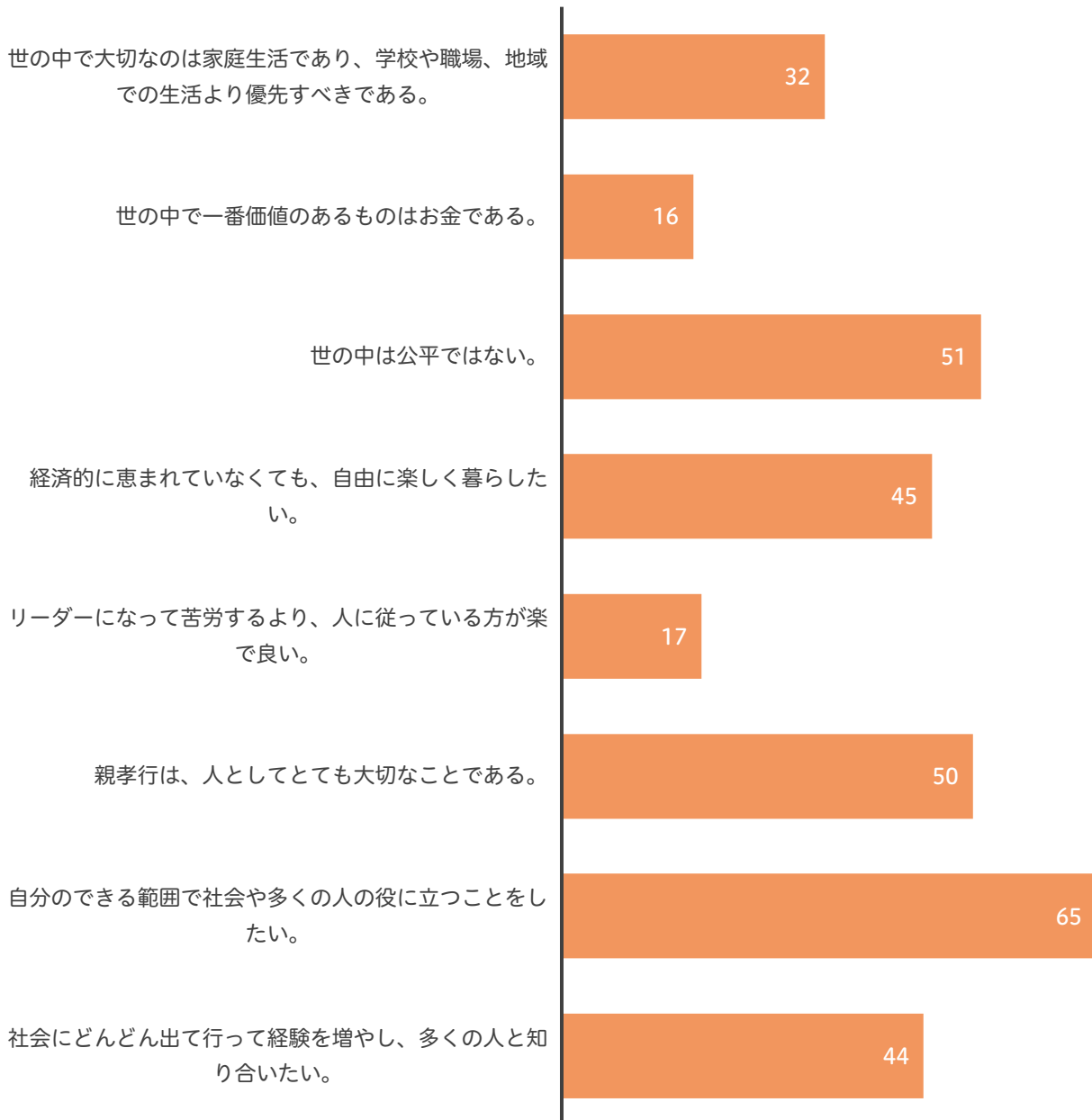
Q13.自分の将来について夢や希望を持っていますか。



【調査結果の概要】

「どちらかといえば持っている」(38%)で最も多く、続いて「持っている」(37%)、「どちらかといえば持っていない」(16%)となっている。

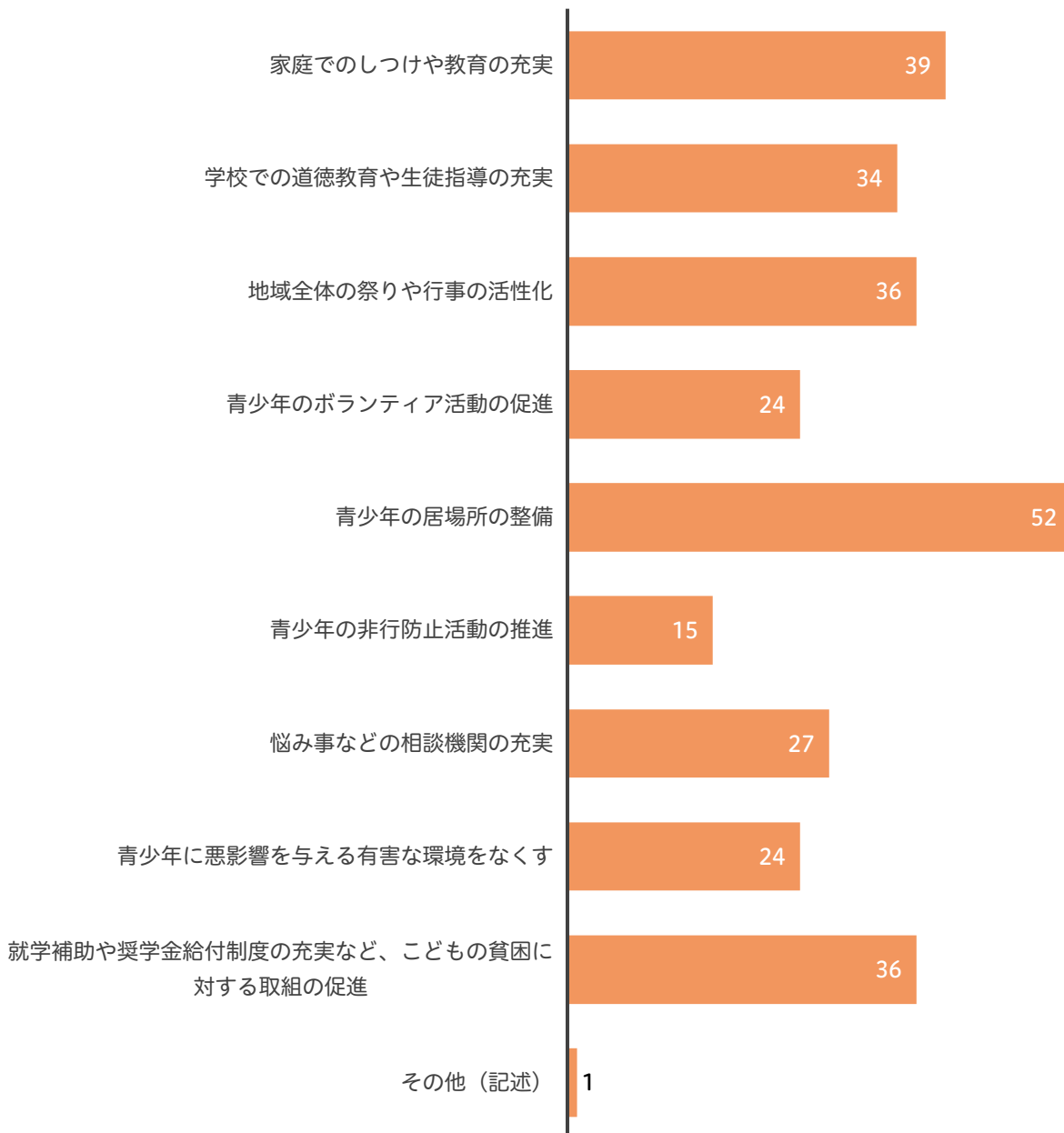
Q14.社会に対する意識として、あなたの考えに近い考え方を選択してください。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「自分のできる範囲で社会や多くの人の役に立つことをしたい」(65件)が最も多く、以下は「世の中は公平ではない」(51件)「親孝行は、人としてとても大切なことである」(50件)と続いている。

Q15.青少年が心も体も健やかに育つために、どのような取組が必要だと考えますか。【3つまで選んでください】



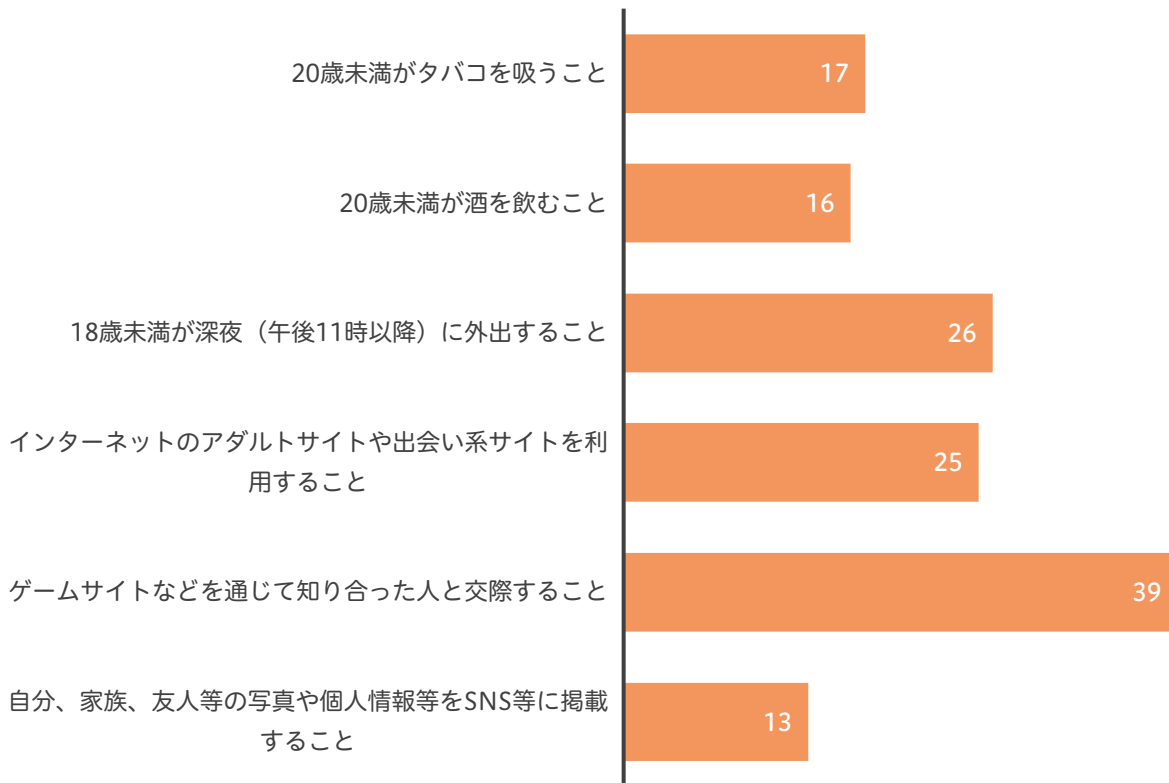
【調査結果の概要】

「青少年の居場所の整備」(52件)が最も多く、以下に「家庭教育でのしつけや教育の充実」(39件)、「地域全体の祭りや行事の活性化」(36件)、「就学補助や奨学金給付制度の充実など、こどもの貧困に対する取組の促進」(36件)と続いている。

【その他の自由記述】

- ・ 学校の先生には、生徒は自分たちの欲をぶつけるための存在では無いことを理解して頂きたい。

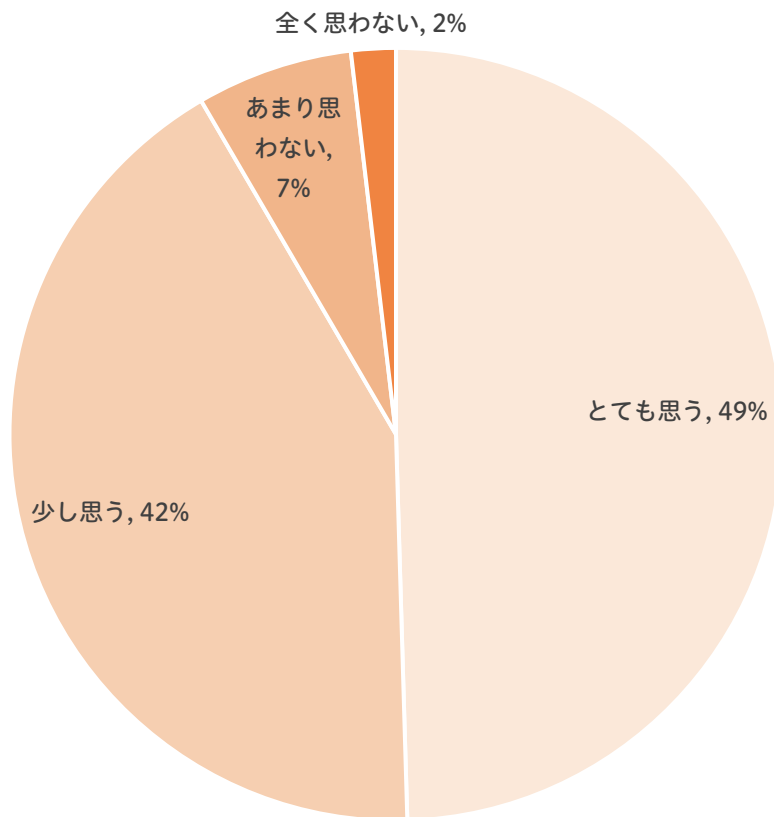
Q16.あなたの考えでは、次のどの行為が「悪くない」と思いますか。
【全て悪いと思う場合は何も選択せず次におすすみください】



【調査結果の概要】

「ゲームサイトなどを通じて知り合った人と交際すること」(39件)が最も多く、以下に「18歳未満が深夜（午後11時以降）に外出すること」(26件)、「インターネットのアダルトサイトや出会い系サイトを利用すること」(25件)と続いている。

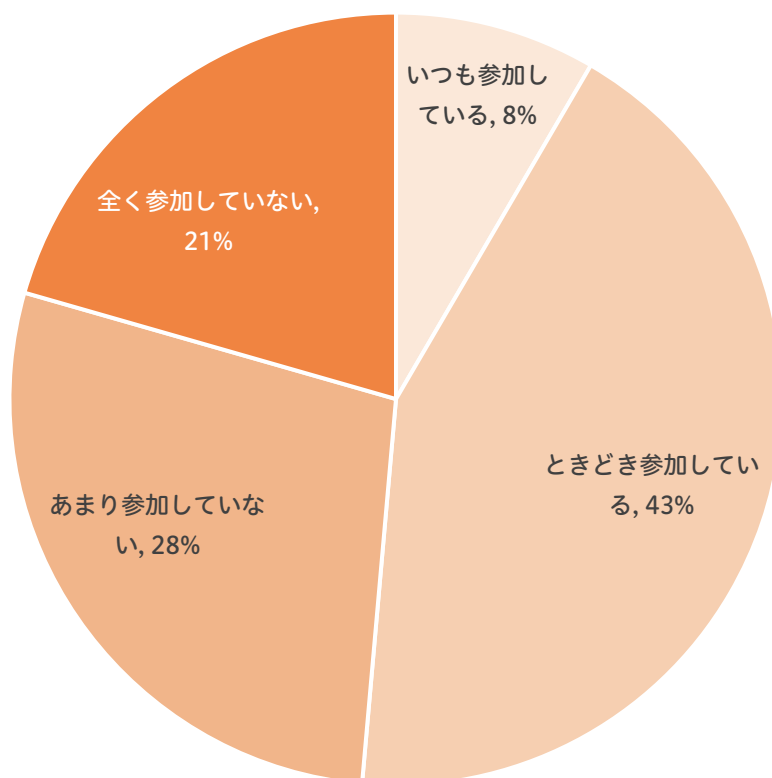
Q17.誰かのためや社会のためになることをしたいと思いますか。



【調査結果の概要】

「とても思う」(49%)、「少し思う」(42%)となっており、9割以上の人「誰かのためや社会のためになることをしたい」と思っている。

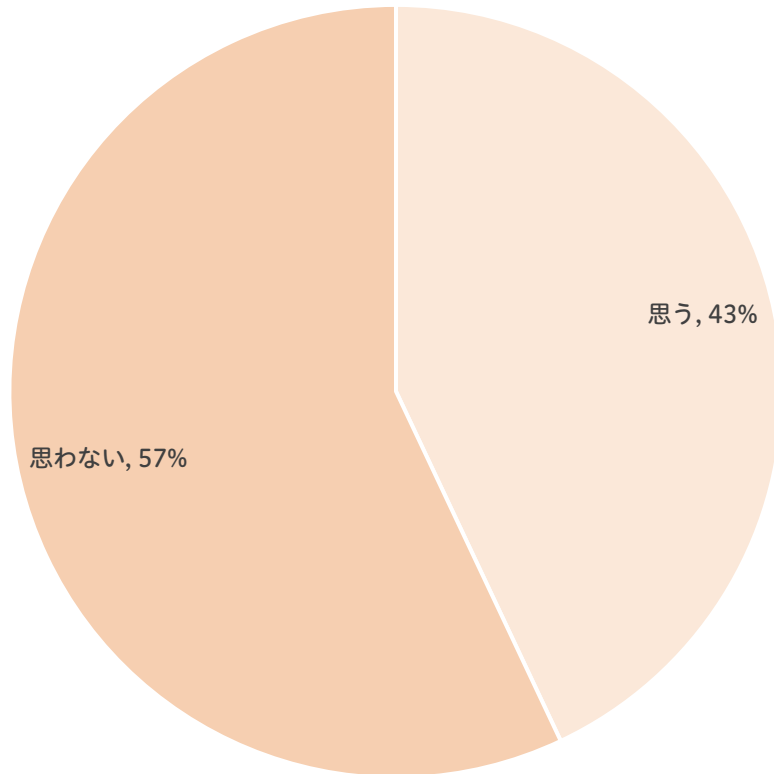
Q18.社会貢献活動（ボランティアなど）に参加していますか。
※募金活動、プルタブやエコキャップ等の収集、育成会等の地域活動など



【調査結果の概要】

「ときどき参加している」(43%)で最も多く、続いて「あまり参加していない」(28%)、「まったく参加していない」(21%)となっている。

Q19.海外留学や海外で仕事をしたいと思えますか。

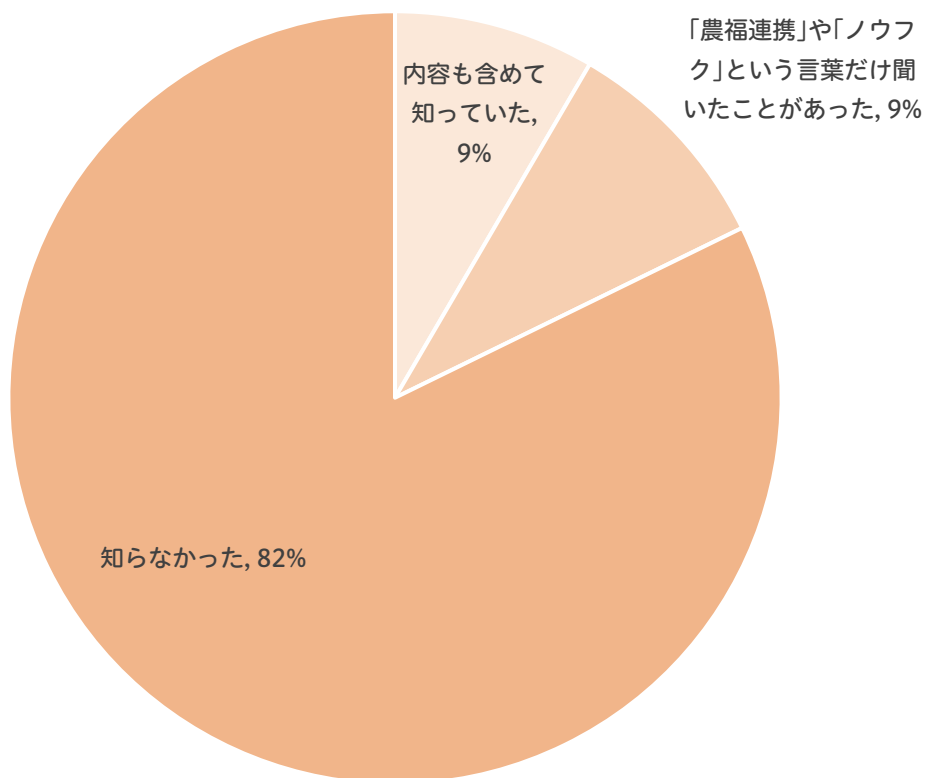


【調査結果の概要】

「思わない」(57%)が「思う」(43%)を上回っている。

Q20.農福連携の取組を知っていますか。

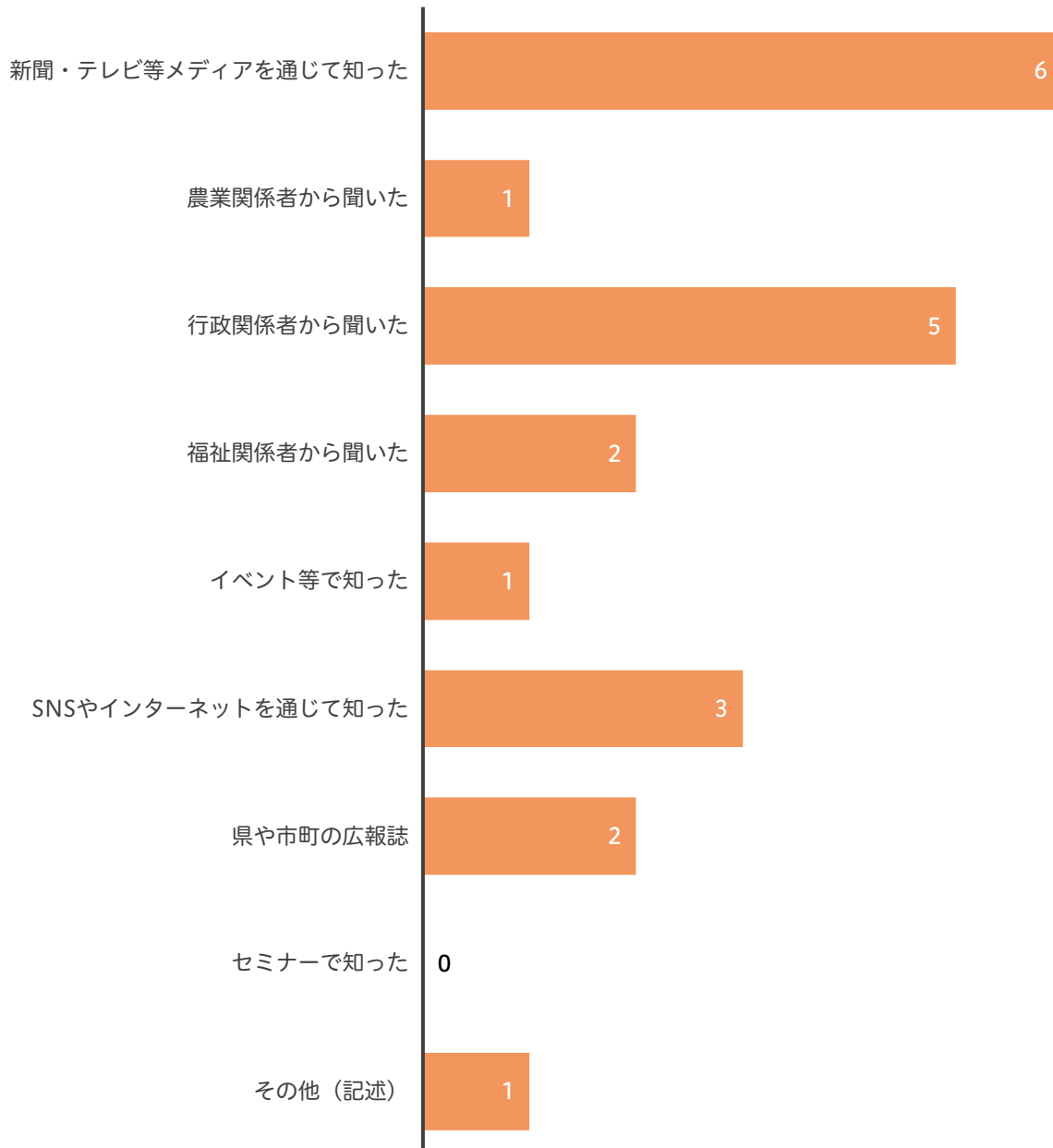
※農福連携（のうふくれんけい）とは、障害のある人が農業を通じて、自信や生きがいをつくり、社会の一員として活動していく取組



【調査結果の概要】

「知らなかった」(82%)が最も多く、「内容も含めて知っていた」「農福連携」や「ノウフク」という言葉だけ聞いたことがあった」が9%と同率であった。

Q21. 「Q20」で「内容も含めて知っていた」と回答した方にお聞きします。農福連携の取組をどのように知りましたか。【いくつでも選んでください】



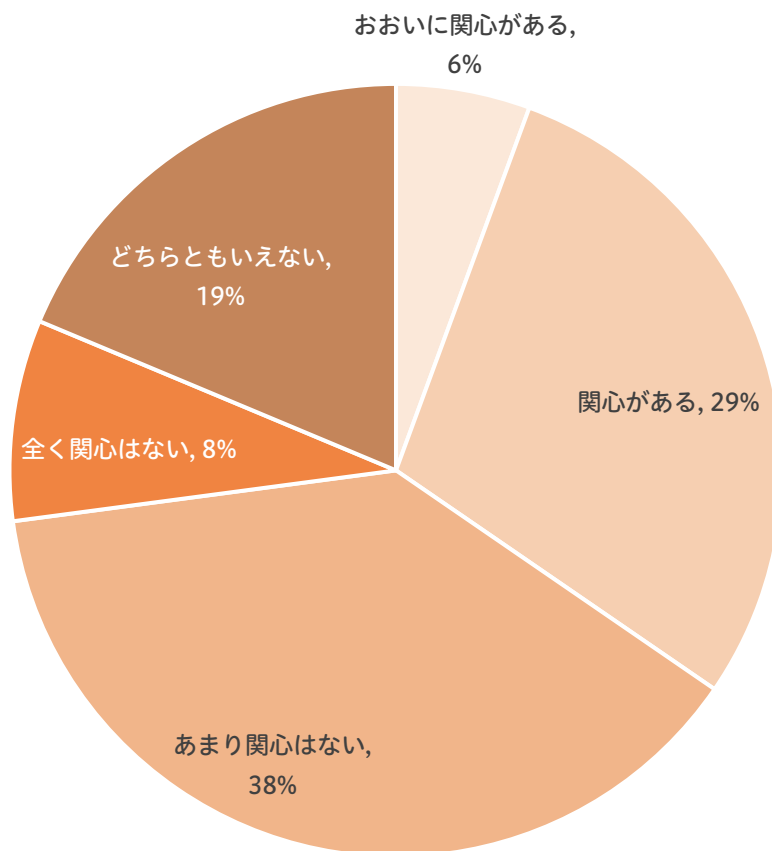
【調査結果の概要】

「新聞・テレビ等メディアを通じて知った」(6件)が最も多く、以下は「行政関係者から聞いた」(5件)「SNSやインターネットを通じて知った」(3件)と続いていた。

【その他の自由記述】

- ・ 家族から聞いた。

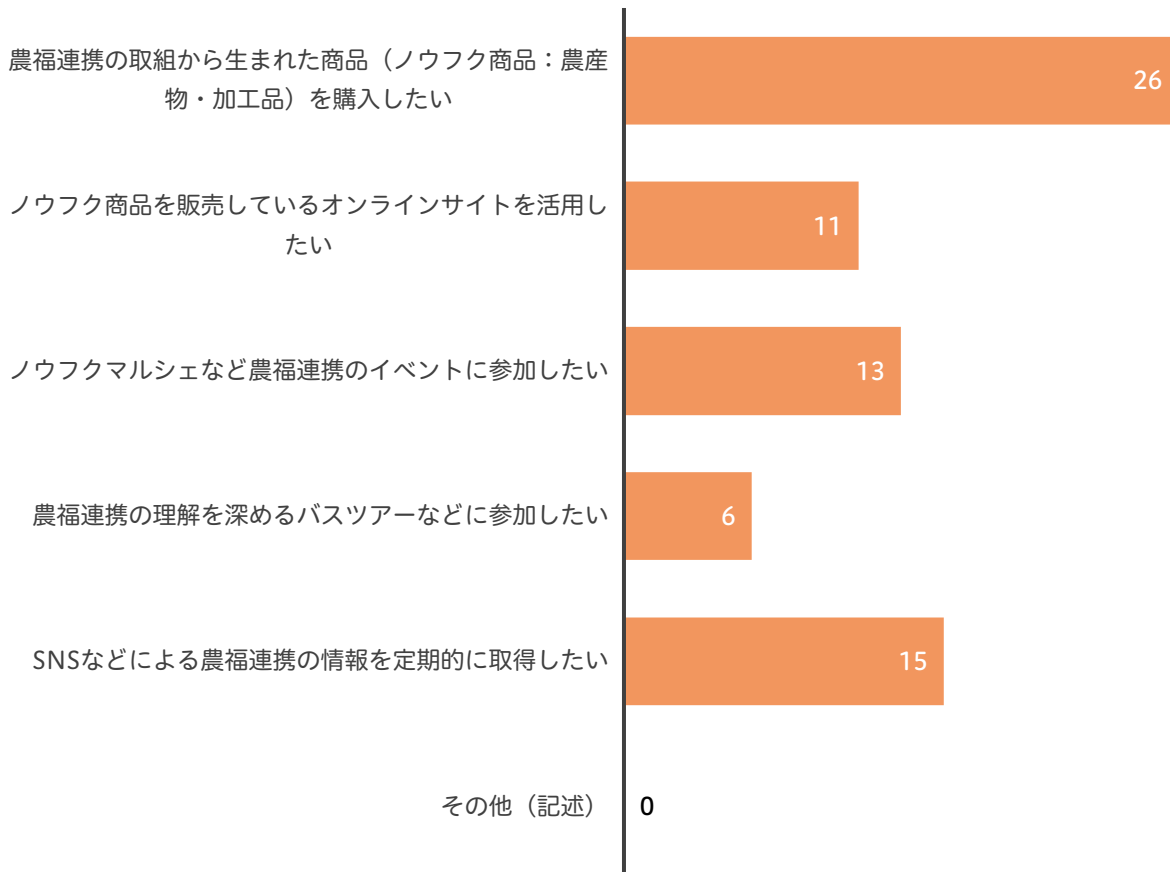
Q22.農福連携について関心はありますか。



【調査結果の概要】

「あまり関心はない」(38%)が最も多く、以下は「関心がある」(29%)、「どちらともいえない」(19%)と続いている。

Q23.「Q22」で、農福連携の取組について、「おおいに関心がある」、「関心がある」と回答した方にお聞きします。農福連携の取組についてどのように関わりたいですか。【いくつでも選んでください】

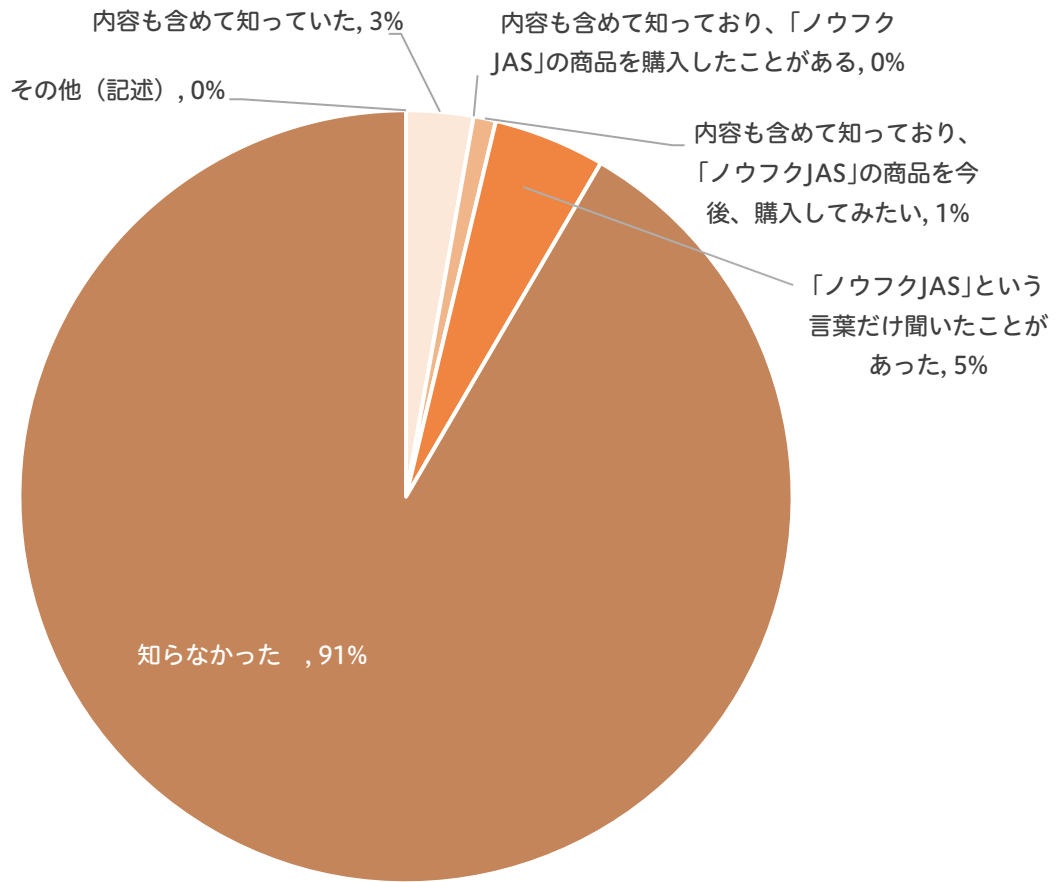


【調査結果の概要】

「農福連携の取組から生まれた商品（ノウフク商品：農産物・加工品）を購入したい」（26件）が最も多く、以下は「SNSなどによる農福連携の情報を定期的に取得したい」（15件）、「ノウフクマルシェなど農福連携のイベントに参加したい」（13件）と続いている。

Q24.ノウフクJASを知っていますか。

※JASとは農林水産物・食品の品質や仕様を揃えるための規格であり、ノウフクJASとは、障害者が生産行程に携わった食品等の規格



【調査結果の概要】

「知らなかった」(91%)が9割以上を占めており、以下は「「ノウフクJAS」という言葉だけ聞いたことがあった」(5%)、「内容も含めて知っており、「ノウフクJAS」の商品を今後、購入してみたい」(1%)と続いている。「内容も含めて知っており、「ノウフクJAS」の商品を購入したことがある」は0%であった。